

2003年 風来坊 Country Walk 里歩き & 山歩き

1. 暖かい冬の週末 柏ひだまり Walk 2003.1.26. & 2.1.

1. 筑波牡丹園



2. 牛久神谷シャトー



3. 流山利根運河



今 家内が柏の整理に神戸から来て来てくれています

寒い朝 ぎりぎりまで寝ていて 朝飯が出来ていのに感謝しています

暖かい快晴の週末 社宅にいるのがもったいなくて近くを Walk

1.26. 柏の北の街 牛久にある 筑波 牡丹園の寒牡丹を見て 近代産業遺産の一つと称される明治の洋館 神谷シャトーに出かけました。

牛久の西の端 筑波市との境に牡丹園があり、冬の牡丹で有名冬になると JR 柏駅に大きな宣伝の看板がでる。冬牡丹のシーズンオープンとの新聞。又、牛久駅の近くの林の中にある神谷シャトー。

「日本で最初に葡萄酒製造した日本近代産業遺産の建築物の中でゆったりとした雰囲気でお昼を楽しめる」と本に出ている。最近のワイン城は各地に出来てはいいものの産業遺産としてのワイン醸造工場が残っている。この二つをつないで 日曜日の午後 ゆっくりと牛久ですごしました。

2. 1. 利根川と江戸川をつなぐ利根運河の土手を歩きました。

丁度 銚子の河口から 100km〔正確には 96.5km〕のところ柏と野田市の境のところから横へ江戸川まで明治に掘られた利根運河 利根川流域から東京への物資輸送の大動脈

京都に琵琶湖疎水とインクラインがありますが、この利根運河も日本近代化の1ページ

今は 運河沿いに美しい桜並木が並びよく整備された自然公園

1.1. 冬 牡 丹 2003.1.26 筑波 牡丹園で



静かな林の中 ひとつひとつ わら帽子をかぶせてもらって 女王の品格と美しさ

大輪の冬牡丹 豪華で あでやか

「立てば芍薬 座れば牡丹 歩く姿は百合の花」

昔から美人を表現するのに使われた花。またそのあでやかさは 背中の刺青 そして 花札に 大輪の花一つ

で 画面いっぱい パツとはなやかになる。昔から愛された所以であろう



筑波牡丹園 冬牡丹 ギャラリー 2003.1.26.



1輪で全体を主張する寒牡丹 すごいですね
大輪の花が今を盛りと咲き誇っている春の牡丹もいいですが、ひとつひとつ 大事に帽子をかぶせてもらっているのも それぞれが個性を発揮していて楽しい。
牡丹もその系統もが幾つもあるって 一つとして同じものがこの牡丹園には植えられていない。園の人によると種類は五万とあるという。
ふっと頭に浮かぶのは 花菖蒲・朝顔など日本古来種の品種改良の歴史がこの花にもあのだらう。
静かな田園に囲まれた岡の斜面の林の中にひとつひとつ我が家を持って咲く 寒牡丹
久しぶりにゆったりと花を見ながらの陽だまりの散策。デジカメ写真も楽しく 家内とスライド ショウにして楽しんでいます。

1.2. 日本の葡萄酒 発祥の地 牛久 神谷シャトーで 2003.1.26.



僕が小さい頃にはまだ 蜂印の葡萄酒ありました。

その蜂印葡萄酒の醸造場を中心とした洋館立ての工場が牛久 神谷シャトーという名の美しい洋館として残っていると言う。近代産業遺産としての価値の高い建物である。

最近の地ビールや地ワインの工場など最初から観光目的の建物と違って やっぱり歴史の重みがある美しい建物である。広い庭の木立の間に立つレンガ造りの洋館はやっぱりシャトーの風格



神谷伝伝兵衛 記念館 旧蜂印葡萄酒 貯蔵蔵

「ゆっくり ワインを飲みながら料理を味わって」 と思っていましたが、残念ながら結婚式の貸切でダメでも この洋館の中でのティも素晴らしいもまのでした

気取らず 金儲け主義でもない ゆったりとした雰囲気の中で日曜日の午後 家内と二人 お茶して帰りました。

蛇足ながら 珈琲カップや ケーキ皿 全て ナルミのボンチャイナ

洋館の高い柱 天上のシャンデリアとマッチして 豊かな気分にしてくれ ご機嫌でした。



天井のシャンデリアには蜂の図案 ナルミ ボンチャイナ の ティーカップ にも出会って
ステキな午後のひとときでした

2003. 2 5. by M. Nakanishi

1.3. 利根川土手から 流山 利根運河 Walk 2003.2.1



利根川の土手と筑波山



利根川と江戸川を結ぶ 利根運河



「運河」というとどんなイメージ 持ちますか・・・ 家内はスエズやパナマ運河をイメージすとい
う。

私は尼崎に住んだせいかな 港に近いかだに組まれた材木置き場やはしけ溜まりがある濁った川のイメージ
柏・野田・流山の境はずれ 東武野田線に「運河」という駅がある。

あまり広くない川の土手には桜並木が続き、よく整備された河川公園川にそって広がっている。

川にそって東京理科大のキャンパスや整然とした住宅街がひろがり、美しい高級住宅街の感。

なんで こんな美しい場所に「運河」なんていう地名つけるのか 僕にとっては 常々不思議。

柏から利根川の土手に出て 利根川越しに筑波山を見て 万がよければ 振り返った南の遠くに白銀輝
く富士山

利根川の土手をゆったり北へ歩くと上記した利根運河の利根川口に至る。銚子の利根川河口から丁度
100km の地点である。

ここから 西へ江戸川までをつなぐのが、明治に利根川流域の物資を東京へ最短コースで結ぶ輸送路として
民間で掘削開通された利根運河。

そういう意味ではこの利根運河も近代産業遺産。

この柏・野田の北 関宿から江戸川が分流され、 利根川を通して関宿で江戸川にでて江戸・東京へ出る航
路は関東の物資輸送の幹線であり、野田はその物資集散地として栄えたと言う。しかし、暴れ川利根川の中
流に属するこのあたりでは 昔から水路がしばしば変わり、又浅瀬の出現が航路を阻み、利根川の下流域の
物資はしばしば 柏から陸路で流山の江戸川へパイプカットされることも多く、利根運河の必要性が昔から
あったという。

明治になって 幾度となく 利根川と江戸川をつなぐ運河の計画の挫折を経て 明治 23 年にこの利根運河

が完成し、鉄道網が展開するまで 物資輸送の幹線として 多くの船が出入りしたと言う。
そんな歴史を秘めた利根運河ではあるが 今は遊歩道・サイクリング道路が整備され、周辺の市民の憩いの場。

断片的には知っていたのですが、僕にとっては「運河」の言葉はさほど良いイメージなく、きっちり歩いた事なし。

そんなことで 2.1.土曜日 柏花野井の家から 利根川沿いを歩いて 利根運河の利根川口へ そして 運河沿いにぶらぶら 東武「運河」の河川公園まで歩き、そのまま運河を離れ、深井の里を抜け 工業団地の横を花野井へ ほぼ 昼をはさんで 5 時間 約 16km 野鳥の声を聞きながら 川岸や雑木林の中を気持ちの良いwalk



利根川土手と筑波山 2003 2. 1



利根運河入口柏近傍
遠景は建設中の筑波エクスプレス



銚子から 95km の標識

今 柏の利根川周辺は平成 17 年を目指した常磐エクスプレスの新線工事が真っ最中。瞬く間に橋脚が建ち並びました。

この利根川岸には柏北部駅が出来ると言う。「どこまでも続く原っぱと利根川の土手 そして その向こうに頭をのぞかせる筑波山」の景観ももうまもなく駅と住宅街の中に埋もれてしまうでしょう。

運河の川底はポカポカ陽気 ひゅんひゅん風が舞う利根川土手とは大きく様変わり。 だれもいない土手下 芦原と川の流れと鳥の声 時折 土手をサイクリングする人の声 自然浴 自然浴



利根運河 河原で 利根運河



東武「運河」駅 近傍



「運河」等と呼ばず、もっと良い名前ないのでしょうか・・・
僕の頭にある「運河」のイメージ この「利根運河」には全くなし よく整備されているはいえ 自然一杯の Walking Road 。 これで 富士山見えたら最高なのですが、今日はダメでした。